

電気通信大学 平成17年度シラバス

授業科目名	コンピュータリテラシー		
英文授業科目名	Computer Literacy		
開講年度	2005年度	開講年次	1年次
開講学期	1学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	専門科目-専門基礎科目-必修科目		
開講学科・専攻	知能機械工学科		
担当教官名	森重 功一、長塩 知之		
居室	東4-522(森重)、東4-822(長塩)		

公開E-Mail	授業関連Webページ
m-shige@mce.uec.ac.jp nagasio@mce.uec.ac.jp	http://www.ims.mce.uec.ac.jp/~m-shige/clb/

【主題および達成目標】
ワークステーションの基本操作を習得し、UNIX環境、ネットワーク環境への入門とする。

【前もって履修しておくべき科目】
なし

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
なし

【教科書等】
教科書：渡辺 成良、若月 光夫、織田 健 共著『UNIXコンピュータリテラシー（第2版）』（共立出版）

【授業内容とその進め方】

以下のような内容を予定している。

- 1 . UNIXというOS (Operating System) の概要、歴史、特徴について知る。
- 2 . ログイン、ログアウト、パスワードの管理等、ワークステーションの基本操作を学ぶ。
- 3 . UNIXの標準環境であるX-Windowシステムの概要と基本操作について理解する。
- 4 . Muleやvi等のエディタ (Editor) の基本操作や日本語入力方法を覚え、電子メディアによるレポートの作成を可能にする。
- 5 . 電子メールの利用。
- 6 . ファイルシステムやディレクトリの概念を理解し、ファイルの作成、移動、削除等の基本操作について習熟する。
- 7 . ブラウザを使ってWWW上の情報を検索する方法について実習する。さらに、自分の Web ページを作成して、WWW上に情報を公開する方法について学ぶ。
- 8 . LaTeX (ラテックまたはラテフと読む) は世界中で広く使われている組版ソフト (印刷ソフト) や、グラフ作成ツール、ドローツールの操作方法について学ぶ。

毎回、出席をとります。レポートを電子メールなどにして数回提出させます。

講義時間中は、2人のT A (Teaching Assistant: 本学の大学院博士前期課程学生) も質問に答えてくれます。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

(a) 評価方法 :

- ・ 中間試験・期末試験は行わない。
- ・ 出席状況、講義中に出す課題の提出状況と内容などから総合的に判定する。

(b) 評価基準 :

以下の到達レベルをもって最低達成基準とする。

- ・ すべての課題が受理されていること。

電気通信大学 平成17年度シラバス

・ネットワークを利用するものとしてのマナーを理解していること。

【オフィスアワー：授業相談】

特に設けない。質問等は電子メールで受け付ける。

【学生へのメッセージ】

将来、勉学や研究に必須の道具ですので早めにマスターするとよいでしょう。

2学期の「基礎プログラミングと演習」には、これが出発点となります。

【その他】